

“命を守る”ための ICT活用地域密着型防災システム の研究開発

(地域ICT振興型研究開発)
平成26年度～平成28年度

研究代表者

光原 弘幸(徳島大学大学院社会産業理工学研究部)

研究分担者

上月 康則(徳島大学大学院社会産業理工学研究部)

井上 武久(株式会社オプトピア)

山口 健治(株式会社オプトピア)

武知 康逸(株式会社オプトピア)

森本 真理(株式会社オプトピア)

研究開発の内容

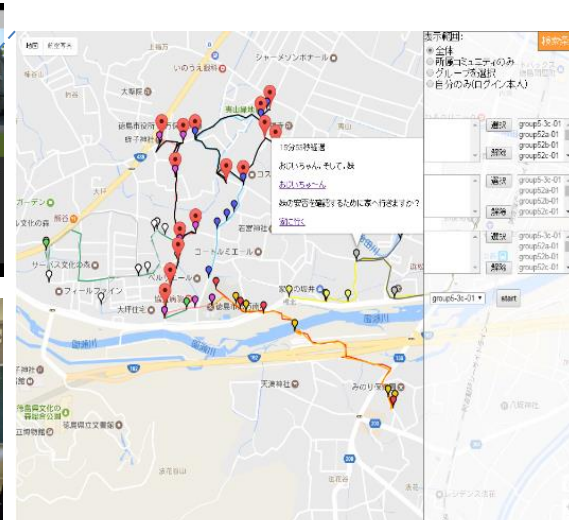
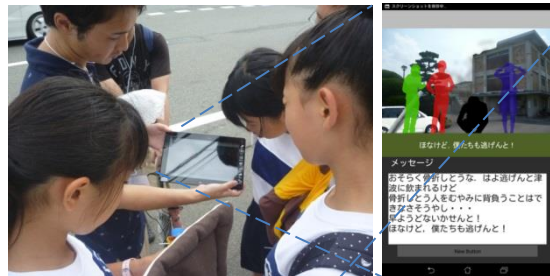
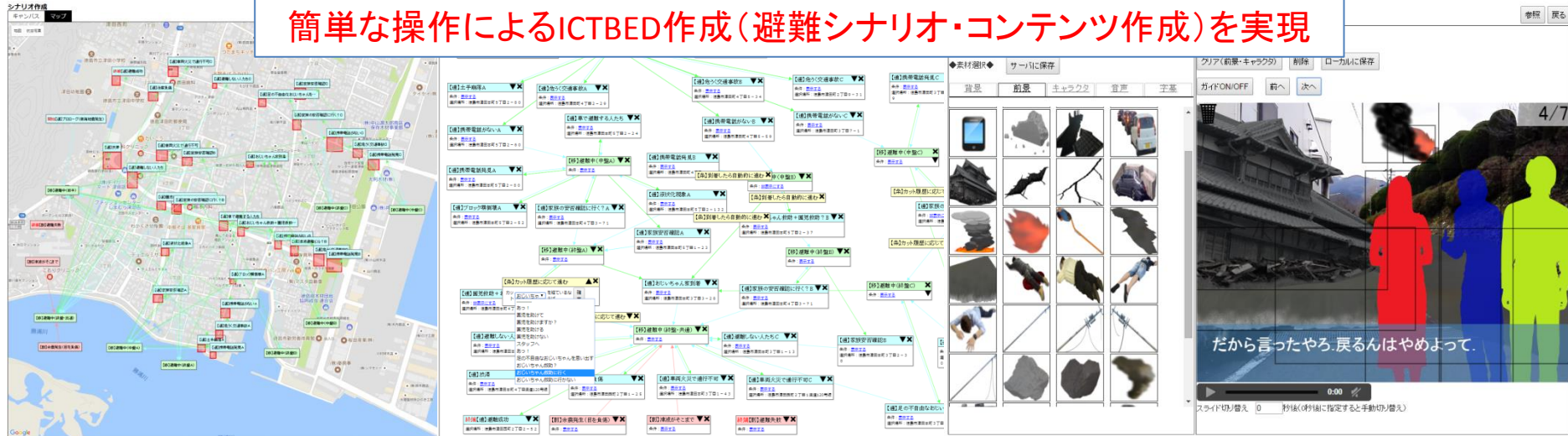
- 研究開発背景・動機
 - 大規模自然災害の多発により、防災が喫緊の課題
- 研究開発の目的
 - ICTを活用し、防災を“自分事”として考え行動できる地域住民を増やす = 地域防災力の向上
- ICT活用地域密着型防災システム
 - ICT活用型避難訓練 (ICT-Based Evacuation Drill: ICTBED)
 - 避難訓練にゲーム要素 (インタラクティブなシミュレーション) を取り入れることで訓練参加を動機づけ、地域防災を深く考えてもらう
 - 集合知を基盤とするデジタル防災マップ (Digital Hazard Map: DHM)
 - 防災マップ作成を容易にすることで地域の防災情報を増加させる
 - Webシステム + 携帯情報端末用アプリ

特に、ICT活用型防災教育として実践・展開

研究開発の成果

ICTBEDシステム

簡単な操作によるICTBED作成(避難シナリオ・コンテンツ作成)を実現



徳島県内の教育機関を主な対象にしてICTBEDを実施

研究開発の成果

DHMシステム

簡単な操作によるDHM作成を実現(アプリによる情報投稿、ブラウザ上での情報共有)



徳島県内の教育機関を主な対象にしてDHM作成を実施

今後の研究開発成果の展開及び波及効果創出への取り組み

- 今後の展開
 - 開発システムの機能拡張を継続する
 - 例. 避難訓練ログや防災情報のビッグデータとしての活用
 - 徳島県に限らず積極的かつ発展的に防災を実践する
- 波及効果創出に向けて
 - 開発システムの観光への応用
 - 例. 防災情報を観光情報へ、避難シナリオを観光シナリオ(ナビゲーション)へ
 - 観光用途と防災用途を瞬時に切り替えられるようにする
 - 新来者(観光客、移住者)に安心して地域に来てもらえることをめざす
 - インバウンド(訪日外国人旅行)の増加に対応するために、開発システムの英語化も必要

開発システムによる観光と防災の両立

“安心・安全・感動”をもたらす地域活性化